



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和3年4月7日
4月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

あら いっほ 新たな一歩

こうちょう さんべい あつし
校長 三瓶 淳

「昨年度は、本当にお会いできませんでしたね・・・」「地域の子どもたちが、お世話になっているのだから、困ったことがあったらいつでも言ってくださいね。」巴前校長と一緒に地域を回ってご挨拶をした時にいただいた言葉です。地域にたつ学校、正に私 が求めている『おらが学校』像が見えました。学校は地域と一体となって、子どもたちの健やかな成長に携わり、一度社会に出た子どもたちが、またこの街に戻って生活したいと思うのは、私 たち教師にとっても嬉しいことであり、素晴らしいことです。私 は、1日をもって城郷小学校に赴任しました三瓶 淳（福島出身）と申します。巴前校長の下、120周年を迎えた城郷小学校の伝統を引き継ぎ、新たな一歩を踏み出す所存です。どうぞよろしく願いいたします。



さて、未だにコロナ禍ではありますが、116名の1年生を迎え、本日全校児童600名での令和3年度をスタートしました。1年前よりも新型コロナウイルスの感染拡大は収まっていませんが、今はwith コロナの時代となり、今後子どもたちの学びは止めません。昨年度は、学校行事をはじめ地域のお祭りなどの中止、延期、変更の連続で、顔の見える関係作りが中々できませんでした。今後も予断を許さない状況ではありますが、「何ができるか」「どうすれば、できるか」という発想のもと、一歩一歩進めていきたいと思います。今年度も保護者の

みなさまには、メール配信や学校ホームページ等を利用して、出来るだけ早めに情報を提供したいと思っています。お子さんと一緒に情報を共有し、令和3年度がより良くスタート出来るようにご理解ご協力をお願いいたします。

ところで、2019年2月に急性リンパ性白血病と診断され、過酷な闘病生活を強いられた池江璃花子選手。実戦復帰から8か月後の4月4日に、競泳バタフライで日本一に返り咲いたニュースは、私たちに大きな勇気を与えてくれました。池江選手は、「あの辛く苦しい闘病生活を思えば、どんなにきつい練習にも前向きに頑張れる。」と言っています。私 たちは、コロナ禍の自粛生活をする中で、かなり不便で、寂しく、先行きが不透明なために不安な生活を送っています。でも、それを乗り越えた先では、今よりも困難に対して心が強く、また人に優しく、発想豊かな人間になっているのではないのでしょうか。そう考えれば、今を大切に生きていきたいものです。

入学・進級し、新たな担任の先生とお友達に出会えた今日、これも素敵な縁ですね。親しい子と一緒に出来なかったと嘆くよりも、新しい友達が出来ることや新たな自分を出せる可能性があることを信じて、一歩を踏み出しましょう。今年度も、教職員一丸となって子どもたちの成長を支え導いていきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。